



年間授業計画

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 国語 科目 言語文化

教科： 国語 科目： 言語文化 単位数： 3 単位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ H 組

教科担当者：（A組： ）（B組： ）（C組： ）（D組： ）（E組： ）（F組： ）（G組： ）（H組： ）

使用教科書：（『高等学校 改訂版 精選言語文化』（第一学習社）〔183 第一 言文 183-901〕）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。

【思考力、判断力、表現力等】 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目 言語文化 の目標：

| 【知識及び技能】   | 【思考力、判断力、表現力等】  | 【学びに向かう力、人間性等】   |
|--|---|--|
| 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。 | 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 | 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。 |

|             | 単元の具体的な指導目標   | 指導項目・内容  | 領域  |   |   | 評価規準   | 知 | 思 | 態 | 配当<br>時数 |
|-------------|---|--|-----|---|---|--|---|---|---|----------|
|             |   |  | 話・聞 | 書 | 読 |  |   |   |   |          |
| 1<br>学<br>期 | A「絵師良秀」（宇治拾遺物語）<br>古典文法（動詞まで）<br>【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。<br>【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。                     | ・歴史的仮名遣いについて理解する。<br>・品詞について理解する。特に用言（動詞）の区別を理解する。<br>・文中の省略語を補って現代語訳する。<br>・説話の特色について理解する。  |     |   | ○ | 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。<br>【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 | ○ | ○ | ○ | 11       |
|             | B 訓読に親しむ<br>【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。<br>【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。  | ・日本語と漢文の構造の違いを理解する。<br>・漢文訓読の仕方を学ぶ。<br>・返り点の種類と、それに従った読み方を理解する。<br>・書き下し文の原則を理解する。<br>・助字（置き字）の種類と用法を理解する。<br>・返読文字の種類と、その読み方・意味を理解する。<br>・再読文字の種類と、その読み方・意味を理解する。 |     |   | ○ | 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。<br>【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 | ○ | ○ | ○ | 5        |
|             | 定期考査  |  |     |   |   |  | ○ | ○ | ○ | 1        |
|             | C「丹波に出雲といふ所あり」（徒然草）<br>「うつくしきもの」（枕草子）<br>古典文法（用言）<br>【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。<br>【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 | ・随筆の内容を把握し、作者の心情を理解する。<br>・随筆に描かれた平安・鎌倉時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。<br>・随筆の特色や、『徒然草』、『枕草子』について理解する。   |     |   | ○ | 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。<br>【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 | ○ | ○ | ○ | 9        |
|             | D「狐借虎威」（戦国策）<br>「蛇足」（戦国策）<br>【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。<br>【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。  | ・漢文訓読や句法について理解する。<br>・教材の内容と故事について理解する。<br>・教材に描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。  |     |   | ○ | 【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。<br>【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。                    | ○ | ○ | ○ | 9        |
| 定期考査        |   |  |     |   |   | ○  | ○ | ○ | 1 |          |

|   |  |  |  |  |  |   |  |  |   |    |     |
|---|--|--|--|--|--|---|--|--|---|----|-----|
| 2<br>学<br>期   | E「芥川」(伊勢物語)<br>「東下り」(伊勢物語)<br>古典文法(助動詞)<br>【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。<br>【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。    | ・物語の内容を把握し、和歌に託された人物の心情を読み取る。<br>・物語に描かれた平安時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。<br>・歌物語の特色や、『伊勢物語』について理解する。   |  |  |  | ○ | 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。<br>【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。                               | ○  | ○ | ○  | 10  |
|   | F「先代陣始」(十八史略)<br>【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。<br>【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。   | ・漢文訓読や句法について理解する。<br>・教材の内容と故事について理解する。<br>・教材に描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。  |  |  |  | ○ | 【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。<br>【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  | ○  | ○ | ○  | 6   |
|   | G 唐詩<br>【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。<br>【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。                                       | ・それぞれの唐詩を声に出して読み、音声として味わう。<br>・唐詩の表現に即して内容を味わい、作者の心情を理解する。<br>・唐詩の種類・修辞や、その役割について理解する。   |  |  |  | ○ | 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。<br>【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。                               | ○  | ○ | ○  | 5   |
|   | 定期考査   |  |  |  |  |   |  | ○  | ○ | ○  | 1   |
|   | H「夢十夜」(夏目漱石)<br>【知】我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。<br>【思】自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫することができる。 | ・情景描写や随所に現れる多様なモチーフの解釈を積み重ねながら、場面の展開や登場人物の心情を的確に捉える。<br>・作家の主張や批評精神について、作品にあらわれたものの見方、考え方を通して理解する。   |  |  |  | ○ | 【知】我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。<br>【思】自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。 | ○  | ○ | ○  | 6   |
|   | I「門出」(土佐日記)<br>古典文法(助動詞)<br>【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。<br>【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。                   | ・日記の内容を把握し、作者の心情を理解する。<br>・日記に描かれた平安時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。<br>・日記の特色や、『土佐日記』について理解する。   |  |  |  | ○ | 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。<br>【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。                               | ○  | ○ | ○  | 6   |
|   | J 万葉集・古今和歌集・新古今和歌集<br>【知】本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解することができる。<br>【思】作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。                                    | ・それぞれの和歌を声に出して読み、音声として味わう。<br>・和歌の表現に即して内容を味わい、作者の心情を理解する。<br>・和歌の修辞やその役割について理解する。<br>・さまざまな歌人についての理解を深める。<br>・『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』の特色について理解する。                    |  |  |  | ○ | 【知】本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。<br>【思】作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  | ○  | ○ | ○  | 5   |
|   | K「臥薪嘗胆」(十八史略)<br>【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。<br>【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。   | ・本文の内容を把握し、登場人物の心情を理解する。<br>・本文に描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。<br>・中国の歴史・文化について理解する。<br>・漢文の特色を声に出して味わう。   |  |  |  | ○ | 【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。<br>【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  | ○  | ○ | ○  | 6   |
|   | 定期考査   |  |  |  |  |   |  | ○  | ○ | ○  | 1   |
|   | 3<br>学<br>期  | L「木曾の最期」(平家物語)<br>古典文法(敬語)<br>【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。<br>【思】自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫することができる。 | ・敬語について理解する。<br>・物語の内容を把握し、登場人物の心情を読み取る。<br>・物語に描かれた鎌倉時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。<br>・軍記物語の特色や、『平家物語』について理解する。 |  |  |   | ○  | 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。<br>【思】自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。 | ○ | ○  | ○   |
| M「死諸葛走生仲達」(十八史略)<br>【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。<br>【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。                                 |  | ・本文の内容を把握し、登場人物の心情を理解する。<br>・本文に描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。<br>・中国の歴史・文化について理解する。<br>・漢文の特色を声に出して味わう。   |  |  |  | ○ | 【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。<br>【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  | ○  | ○ | ○  | 8   |
| N 論語<br>【知】時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解することができる。<br>【思】作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 |  | ・各文の内容を把握し、その論理展開を理解する。<br>・各文に描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方・考え方を理解する。<br>・『論語』と孔子について理解する。<br>・漢文の特色を声に出して味わう。   |  |  |  | ○ | 【知】時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。<br>【思】作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。     | ○  | ○ | ○  | 6   |
| 定期考査  |  |  |  |  |  |   |  | ○  | ○ | ○  | 1   |
|   |  |  |  |  |  |   |  |  |   | 合計 | 105 |

高等学校 令和8年度(2学年用) 教科 国語 科目 古典探究

教科: 国語

科目: 古典探究

単位数: 3 単位

対象学年組: 第2学年 A組~ H組

教科担当者: (A組: ) (B組: ) (C組: ) (D組: ) (E組: ) (F組: ) (G組: ) (H組: )

使用教科書: (「古典探究」第一学習社 )

教科 国語

の目標:

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使用する能力を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、自己の思考を深化させ、理解する能力、伝達する能力の向上を図り、生涯を支える国語力を身につける。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 言語文化

の目標:

| 【知識及び技能】   | 【思考力、判断力、表現力等】  | 【学びに向かう力、人間性等】   |
|--|---|--|
| 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。 | 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 | 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。 |

|             | 単元の具体的な指導目標  | 指導項目・内容   | 領域  |   |   | 評価規準   | 知 | 思 | 態 | 配当<br>時数 |
|-------------|--|---|-----|---|---|--|---|---|---|----------|
|             |  |   | 話・聞 | 書 | 読 |  |   |   |   |          |
| 1<br>学<br>期 | ・「門出」<br>・「源氏の五十余巻」(更級日記)<br>【知】文語の決まりや古典特有の表現について理解すること。<br>【思】文章の内容・構成・展開について理解すること。                   | ・原文筆写や音読などによって平安時代の日記文学に親しむ。<br>・文章の構成・展開、表現の特色について考える。<br>・平安時代の文化、習慣、言葉について理解を深化する。   | ○   | ○ | ○ | ア)言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。<br>イ)古典の世界に親しみ、古文を読むために必要な文語文法、古文特有の表現などについて理解している。<br>ウ)文章の構成や展開などについての確に理解している。  | ○ | ○ | ○ | 10       |
|             | ・「呉越同舟」(孫子)<br>・「鶏鳴狗盗」(十八史略)<br>・「何必曰利」(孟子)<br>【知】漢文の決まりや古典特有の表現について理解すること。<br>【思】文章の内容・構成・展開について理解すること。 | ・原文筆写や音読などによって漢文に親しみ、漢文の世界を味わう。<br>・文章の構成・展開、表現の特色について考える。<br>・漢文を読むために必要な訓読の決まりを学ぶ。  | ○   | ○ | ○ | ア)古典の世界に親しみ、漢文を読むために必要な訓読の決まりや、再読文字などについて理解している。<br>イ)故事成語を読み、また自ら調べることで、我が国の言語文化の特徴を実感し、文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。<br>ウ)文章の構成や展開についての確に理解している。   | ○ | ○ | ○ | 9        |
|             | 定期考査   |   |     |   |   |  | ○ | ○ |   | 1        |
|             | ・「雪のいと高う降りたるを」<br>・「二月つごもりごろに」(枕草子)<br>【知】文語の決まりや古典特有の語について理解すること。<br>【思】文章の内容・構成・展開について理解すること。          | ・原文筆写や音読などによって平安時代の女性による随想に親しむ。<br>・文語文法、特に助動詞の活用のしかたや意味について学ぶ。<br>・平安時代の文化、習慣、言葉について理解を深化する。   | ○   | ○ | ○ | ア)言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。<br>イ)古典の世界に親しみ、古文を読むために必要な文語文法、古文特有の表現などについて理解している。<br>ウ)文章の構成や展開などについての確に理解している。  | ○ | ○ | ○ | 14       |
|             | ・「秋風引」<br>・「九月九日憶山東兄弟」<br>・「江村」<br>【知】漢文の決まりや古典特有の語について理解すること。<br>【思】文章の内容・構成・展開について理解すること。              | ・原文筆写や音読などによって漢文に親しみ、漢文の世界を味わう。<br>・文章の構成・展開、表現の特色について考える。<br>・漢文を読むために必要な訓読の決まりを学ぶ。  | ○   | ○ | ○ | ア)教材の文章を読解し、漢文の言葉と日本語とのつながりについて理解している。<br>イ)文章の構成や展開についての確に理解している。<br>ウ)新体詩の押韻、対句についての確に理解している。  | ○ | ○ | ○ | 8        |
| 定期考査        |  |   |     |   |   | ○  | ○ |   | 1 |          |
| 2<br>学<br>期 | ・「雲林院の菩提講」<br>・「花山天皇の出家」(大鏡)<br>【知】文語の決まりや古典特有の語について理解すること。<br>【思】文章の内容・構成・展開について理解すること。                 | ・原文筆写や音読などによって歴史物語に親しみ、平安時代の貴族文化に触れる。<br>・貴族社会における身分制度によって生じる敬語について、理解を深化する。<br>・歌物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。<br>・歌物語を読み、作者の意図をふまえて内容を的確に捉え、構成や展開について積極的に評価しようとする。 | ○   | ○ | ○ | ア)歴史上の人物について、その人物像を的確に把握している。<br>イ)教材の『大鏡』が成立した背景や、他の作品との関係をふまえて、内容を理解している。<br>ウ)古文における助詞や助動詞について意味を的確に理解している。<br>エ)歌物語を読み、作者の意図をふまえて内容を的確に捉え、構成や展開について積極的に評価しようとしている。<br>オ)学習の見通しをもって歌物語を読み、和歌のよまれた事情が記述された歌物語の特徴について、理解を深めようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 8        |
|             | ・「鴻門之会」(史記)<br>【知】漢文の決まりや古典特有の語について理解すること。<br>【思】文章の内容・構成・展開について理解すること。                                  | ・原文筆写や音読などによって漢文に親しみ、漢文の世界を味わう。<br>・文章の構成・展開、表現の特色について考える。<br>・漢文を読むために必要な訓読の決まりを学ぶ。  | ○   | ○ | ○ | ア)教材の文章を読解し、漢文の言葉と日本語とのつながりについて理解している。<br>イ)文章の構成や展開についての確に理解している。<br>ウ)中国の史実について、その人物像を想像し、出来事についての確に理解している。  | ○ | ○ | ○ | 9        |
|             | 定期考査   |   |     |   |   |  | ○ | ○ |   | 1        |



年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 国語 科目 文学国語

教科： 国語 科目： 文学国語 単位数： 2 単位  
 対象学年組：第 2 学年 A 組～ H 組  
 教科担当者：（A組： ）（B組： ）（C組： ）（D組： ）（E組： ）（F組： ）（G組： ）（H組： ）  
 使用教科書：（『文学国語』筑摩書房（143 筑摩 文国 708））  
 教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
- 【思考力、判断力、表現力等】 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
- 【学びに向かう力、人間性等】 言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目 文学国語 の目標：

| 【知識及び技能】   | 【思考力、判断力、表現力等】   | 【学びに向かう力、人間性等】  |
|--|--|---|
| 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。 | 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 |

| 単元の具体的な指導目標   | 指導項目・内容  | 領域  |   |   | 評価規準  | 知 | 思 | 態 | 配当<br>時数 |
|---|--|-----|---|---|---|---|---|---|----------|
|   |  | 話・聞 | 書 | 読 |   |   |   |   |          |
| A「山月記」（中島敦）<br>【知】情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。<br>【思】設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。   | ・漢文調のリズムを味わう。<br>・小説の設定を正確におさえる。<br>・登場人物のやり取りに注目し、会話の表現方法を理解する。<br>・登場人物の心情を、本文を根拠に読み取る。<br>・作品の基となった古典作品と同じ題材の作品と比較する。 | ○   | ○ | ○ | ア) 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。<br>イ) 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。                        | ○ | ○ | ○ | 10       |
| 定期考査  |  |     |   |   |   | ○ | ○ |   | 1        |
| B「トリアージ社会」<br>【知】文章の効果的な組み立て方、接続の仕方を理解する。<br>【思】論理の展開を叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。  | ・具体例を通じた筆者の主張を、論理構成を的確に把握して読み解く。<br>・「トリアージ社会」の意味するところを理解する。<br>・現代社会の状況の中で自身の自由について、思考の深化を図る。                           | ○   | ○ | ○ | ア) 本教材のテーマについて、実生活の中での現象として理解している。<br>イ) 常用漢字を適切に使用することができる。<br>ウ) 本教材について、筆者の主張を理解している。<br>エ) 評論の内容、構成、論理の展開について、的確に把握している。        | ○ | ○ | ○ | 8        |
| 定期考査  |  |     |   |   |   | ○ | ○ |   | 1        |
| C「実体の美と状況の美」（高階秀爾）<br>【知】文学的文章、論理的文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めることができる。<br>【思】作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。                        | ・美意識の中に潜む文化的な基準を本文から読み取る。<br>・筆者の見解について、論の構造を正確におさえながら理解する。<br>・筆者の見解についての問題に取り組みながら読解を深める。                              | ○   | ○ | ○ | ア) 文学的文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。<br>イ) 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。                                    | ○ | ○ | ○ | 8        |
| 定期考査  |  |     |   |   |   | ○ | ○ |   | 1        |
| D「こころ」（夏目漱石）<br>【知】人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができる。<br>【思】作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めることができる。 | ・人間関係をおさえながら、登場人物を観察・分析し、心理の揺れ動きをたどる。<br>・登場人物の様子に留意して、物語を立体的に捉える。<br>・テキストの細部に着目しながら物語を読み味わう。                           | ○   | ○ | ○ | ア) 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。<br>イ) 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。 | ○ | ○ | ○ | 10       |
| 定期考査  |  |     |   |   |   | ○ | ○ |   | 1        |
| E「無常ということ」（小林秀雄）<br>【知】文章の効果的な組み立て方、接続の仕方を理解する。<br>【思】論理の展開を叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。  | ・「無常」という思想が日本文化にもたらしたものを把握し、思考の深化を図る。<br>・随想について、「具体例」から抽象化された筆者の意図を的確に把握し理解することができる。                                    | ○   | ○ | ○ | ア) 本教材のテーマについて、実生活の中での現象として理解している。<br>イ) 常用漢字を適切に使用することができる。<br>ウ) 本教材について、筆者の主張を理解している。<br>エ) 随想の内容、構成、論理の展開について、的確に把握している。        | ○ | ○ | ○ | 7        |
| 定期考査  |  |     |   |   |   | ○ | ○ |   | 1        |
| F「地図の想像力」<br>【知】文章の効果的な組み立て方、接続の仕方を理解する。<br>【思】論理の展開を叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。   | ・具体例を通じた筆者の主張を、論理構成を的確に把握して読み解く。<br>・身近な物事を分析し、その仕組みを捉える。<br>・「地図」という情報の受容について、それを吟味する必要性について考える。                        | ○   | ○ | ○ | ア) 本教材のテーマについて、実生活の中での現象として理解している。<br>イ) 常用漢字を適切に使用することができる。<br>ウ) 本教材について、筆者の主張を理解している。<br>エ) 評論の内容、構成、論理の展開について、的確に把握している。        | ○ | ○ | ○ | 6        |
| 定期考査  |  |     |   |   |   | ○ | ○ |   | 1        |



年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 国語 科目 文系古典探究

教科： 国語 科目： 文系古典探究 単位数： 4 単位

対象学年組： 第 3 学年 A 組～ H 組

教科担当者：

使用教科書：（『高等学校 古典探究 古文編』『高等学校 古典探究 漢文編』第一学習社（183 第一 古探 717・718））

教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
- 【思考力、判断力、表現力等】 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
- 【学びに向かう力、人間性等】 言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目 文系古典探究 の目標：

| 【知識及び技能】   | 【思考力、判断力、表現力等】  | 【学びに向かう力、人間性等】  |
|--|---|---|
| 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。 | 「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。 |

|  | 単元の具体的な指導目標  | 指導項目・内容   | 領域  |   |   | 評価規準  | 知 | 思 | 態  | 配当<br>時数 |
|--|--|---|-----|---|---|---|---|---|----|----------|
|  |  |   | 話・聞 | 書 | 読   |   |   |   |    |          |
| 1<br>学<br>期  | A「宮に初めて参りたるころ」（枕草子）<br>B「深草の里」（無明抄）<br>古文問題演習<br>【知】古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。<br>【思】文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。  | ・日記的章段を読んで、作者と中宮定子との関係性を読み解くとともに、当時の宮廷生活に関する理解を深める。<br>・歌論という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。<br>・書き手の意図を捉えて内容を解釈し、文章の構成や展開、表現の特色について評価する。 |     |   | ○   | 【知】古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。<br>【思】文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。  | ○ | ○ | ○  | 18       |
|  | C「不若人有其宝」（新序文）<br>漢文問題演習<br>【知】古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。<br>【思】古典の作品や文章などに表れているものの方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。                  | ・訓読上のきまりを正しく理解して本文の解釈に活用する。<br>・前半の子罕の逸話と後半の論説とを読み、人にとっての宝とはどういうものかを探る。<br>・逸話という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。<br>・逸話を読み、自分のものの見方や考え方を深める。         |     |   | ○   | 【知】古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。<br>【思】古典の作品や文章などに表れているものの方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 | ○ | ○ | ○  | 9        |
|  | 定期考査   |   |     |   |   |   | ○ | ○ | ○  | 1        |
|  | D「女三の宮の降嫁」（源氏物語）<br>E「紫の上の死」（源氏物語）<br>古文問題演習<br>【知】古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。<br>【思】古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 | ・長編物語としてのストーリーをたどりながら、『源氏物語』の話の展開のしかたや心理描写の巧みさを捉える。<br>・長編物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。<br>・平安時代の貴族社会の様子や宮廷社会の身分秩序について理解を深める。      |     |   | ○   | 【知】古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。<br>【思】古典の作品や文章などに表れているものの方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 | ○ | ○ | ○  | 18       |
|  | F「捕蛇者説」（柳宗元）<br>漢文問題演習<br>【知】古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができる。<br>【思】必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができる。                                  | ・蔣氏の言葉に表れた、古代の民衆の生活の様子を読み取るとともに、作者がこの文章を著した目的を理解する。<br>・「説」という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。<br>・訓読のきまりについて理解を深める。                       |     |   | ○   | 【知】古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。<br>【思】必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。               | ○ | ○ | ○  | 9        |
|  | 定期考査   |   |     |   |   |   | ○ | ○ | ○  | 1        |
| G「うつろひたる菊」（蜻蛉日記）<br>H「灯挑に朝顔」（西国諸園ばなし）<br>古文問題演習<br>【知】古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができる。<br>【思】古典の作品や文章などに表れているものの方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 | ・女性による日記文学の先駆となった作品を読んで、自己の内面を赤裸々に書き綴った心情描写に触れる。<br>・近世に生まれた新たな文芸を読み、語彙や表現に慣れるとともに、文章に表れた価値観を通して考えを深める。<br>・浮世草子という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。   |   |     | ○ | 【知】古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。<br>【思】古典の作品や文章などに表れているものの方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 | ○   | ○ | ○ | 18 |          |
| I「性善」（孟子・告子上）<br>J「機心」（荘子）<br>漢文問題演習<br>【知】古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができる。<br>【思】古典の作品や文章などに表れているものの方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。   | ・儒家の古典である『孟子』『荘子』を読み、古代中国思想について理解する。<br>・思想という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。<br>・思想を述べた文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。<br>・思想を述べた文章の特徴について理解を深める。   |   |     | ○ | 【知】古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。<br>【思】古典の作品や文章などに表れているものの方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。                              | ○   | ○ | ○ | 9  |          |



年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 国語 科目 論理国語

教科：国語

科目：論理国語

単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 A組～H組

教科担当者：

使用教科書：（『論理国語』筑摩書房〔143 筑摩 論国 710〕）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。

【思考力、判断力、表現力等】 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目 論理国語 の目標：

| 【知識及び技能】                     | 【思考力、判断力、表現力等】   | 【学びに向かう力、人間性等】  |
|------------------------------|--|---|
| 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができる。 | 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 |

|             | 単元の具体的な指導目標  | 指導項目・内容   | 領域  |   |   | 評価規準  | 知 | 思 | 態 | 配当<br>時数 |    |
|-------------|--|---|-----|---|---|---|---|---|---|----------|----|
|             |  |   | 話・聞 | 書 | 読 |   |   |   |   |          |    |
| 1<br>学<br>期 | A「近代の成立——遠近法」<br>【知】段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。<br>【思】文章の構成や展開、表現の仕方などについて、主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味する。             | ・「近代」が生み出してきた思考や世界観について理解する。<br>・「近代」において「主体」と「客体」として位置づけられたものにはどのようなものがあるか、またその区分はどのような問題を作り出したかを考える。      |     | ○ | ○ | ア) 本文のテーマについて、実生活の中での現象として理解している。<br>イ) 漢字や語句を適切に使用することができる。<br>ウ) 本文について、筆者の主張を理解している。<br>エ) 評論の内容、構成、論理の展開について、的確に把握している。 |   | ○ | ○ | ○        | 7  |
|             | B「地図の想像力」<br>【知】文章の効果的な組み立て方、接続の仕方を理解する。<br>【思】関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深める。                                     | ・人間と世界との多様な関係について考える。<br>・さまざまな地図について、その特色を理解する。  |     | ○ | ○ | ア) 本文のテーマについて、実生活の中での現象として理解している。<br>イ) 漢字や語句を適切に使用することができる。<br>ウ) 本文について、筆者の主張を理解している。<br>エ) 評論の内容、構成、論理の展開について、的確に把握している。 |   | ○ | ○ | ○        | 5  |
|             | 定期考査   |   |     |   |   |   |   | ○ | ○ | ○        | 1  |
|             | C「『である』ことと『する』こと」<br>【知】論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにする。<br>【思】主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討する。                 | ・社会の原理や原則を形づくることばが、どんな思想や行動に支えられているかという分析を突き詰める文章の手法を理解する。<br>・自分たちの生活の中にある「である」価値と「する」価値について、具体例を挙げて考える。   |     | ○ | ○ | ア) 本文のテーマについて、実生活の中での現象として理解している。<br>イ) 漢字や語句を適切に使用することができる。<br>ウ) 本文について、筆者の主張を理解している。<br>エ) 評論の内容、構成、論理の展開について、的確に把握している。 |   | ○ | ○ | ○        | 10 |
|             | D「記号としての身体」<br>【知】文章の効果的な組み立て方、接続の仕方を理解する。<br>【思】内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらいまを把握する。                                    | ・具合例を通じた筆者の主張を、論理構成を的確に把握して読み解く。<br>・「他者によって認識された自己身体」について理解する。<br>・「社会的な記号性を欠いた身体は存在しない」という筆者の主張を批判的に検討する。 |     | ○ | ○ | ア) 本文のテーマについて、実生活の中での現象として理解している。<br>イ) 漢字や語句を適切に使用することができる。<br>ウ) 本文について、筆者の主張を理解している。<br>エ) 評論の内容、構成、論理の展開について、的確に把握している。 |   | ○ | ○ | ○        | 4  |
| 定期考査        |  |   |     |   |   |   | ○ | ○ | ○ | 1        |    |
| 2<br>学<br>期 | E「トリアージ社会」<br>問題演習<br>【知】主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解する。<br>【思】人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深める。 | ・ことばの変遷を追うことによって社会の実像が見えてくるということを理解する。<br>・治療において「トリアージ」が導入されることについて考える。                                    |     | ○ | ○ | ア) 本文のテーマについて、実生活の中での現象として理解している。<br>イ) 漢字や語句を適切に使用することができる。<br>ウ) 本文について、筆者の主張を理解している。<br>エ) 評論の内容、構成、論理の展開について、的確に把握している。 |   | ○ | ○ | ○        | 7  |
|             | F「『贅沢』のすすめ」<br>問題演習<br>【知】文章の効果的な組み立て方、接続の仕方を理解する。<br>【思】内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらいまを把握する。                            | ・具合例を通じた筆者の主張を、論理構成を的確に把握して読み解く。<br>・消費社会の課題について考える。<br>・「浪費をとまなう贅沢は非難されるものではなく、豊かな生活に不可欠なものだ」という筆者の主張      |     | ○ | ○ | ア) 本文のテーマについて、実生活の中での現象として理解している。<br>イ) 漢字や語句を適切に使用することができる。<br>ウ) 本文について、筆者の主張を理解している。<br>エ) 評論の内容、構成、論理の展開について、的確に把握している。 |   | ○ | ○ | ○        | 5  |
|             | 定期考査   |   |     |   |   |   |   | ○ | ○ | ○        | 1  |



年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用）教科

国語 科目 論理国語演習

教科：国語

科目：論理国語演習

単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 A組～H組

教科担当者：

使用教科書：（『論理国語』筑摩書房〔143 筑摩 論国 710〕）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。

【思考力、判断力、表現力等】 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目 論理国語演習 の目標：

| 【知識及び技能】                     | 【思考力、判断力、表現力等】   | 【学びに向かう力、人間性等】  |
|------------------------------|--|---|
| 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができる。 | 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 |

|             | 単元の具体的な指導目標  | 指導項目・内容   | 領域 |   |   | 評価規準   | 知 | 思 | 態 | 配<br>時<br>数 |
|-------------|--|---|----|---|---|--|---|---|---|-------------|
|             |  |   | 語  | 書 | 読 |  |   |   |   |             |
| 1<br>学<br>期 | A「主義は広大なるべき事」（福沢諭吉）<br>問題演習<br>【知】文章の効果的な組み立て方、接続の仕方を理解する。<br>【思】論理の展開を叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。  | ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。<br>・書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的に応じた適切な文や文章を書く。 | ○  | ○ |   | ア) 本教材のテーマについて、実生活の中での現象として理解している。<br>イ) 常用漢字を適切に使用することができる。<br>ウ) 本教材について、筆者の主張を理解している。<br>エ) 評論の内容、構成、論理の展開について、的確に把握している。 | ○ | ○ | ○ | 6           |
|             | B「自由の説」（中江兆民）<br>問題演習<br>【知】文章の効果的な組み立て方、接続の仕方を理解する。<br>【思】論理の展開を叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。        | ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。<br>・書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的に応じた適切な文や文章を書く。 | ○  | ○ |   | ア) 本教材のテーマについて、実生活の中での現象として理解している。<br>イ) 常用漢字を適切に使用することができる。<br>ウ) 本教材について、筆者の主張を理解している。<br>エ) 評論の内容、構成、論理の展開について、的確に把握している。 | ○ | ○ | ○ | 6           |
|             | C「ものごと」（木村敏）<br>問題演習<br>【知】文章の効果的な組み立て方、接続の仕方を理解する。<br>【思】論理の展開を叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。         | ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。<br>・書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的に応じた適切な文や文章を書く。 | ○  | ○ |   | ア) 本教材のテーマについて、実生活の中での現象として理解している。<br>イ) 常用漢字を適切に使用することができる。<br>ウ) 本教材について、筆者の主張を理解している。<br>エ) 評論の内容、構成、論理の展開について、的確に把握している。 | ○ | ○ | ○ | 7           |
|             | D「病気の向こう側」（田中祐理子）<br>問題演習<br>【知】文章の効果的な組み立て方、接続の仕方を理解する。<br>【思】論理の展開を叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。    | ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。<br>・書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的に応じた適切な文や文章を書く。 | ○  | ○ |   | ア) 本教材のテーマについて、実生活の中での現象として理解している。<br>イ) 常用漢字を適切に使用することができる。<br>ウ) 本教材について、筆者の主張を理解している。<br>エ) 評論の内容、構成、論理の展開について、的確に把握している。 | ○ | ○ | ○ | 7           |
|             | 定期考査   |   |    |   |   |  | ○ | ○ | ○ | 1           |
| 2<br>学<br>期 | E「物語としての自己」（野口裕二）<br>問題演習<br>【知】文章の効果的な組み立て方、接続の仕方を理解する。<br>【思】論理の展開を叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。    | ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。<br>・書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的に応じた適切な文や文章を書く。 | ○  | ○ |   | ア) 本教材のテーマについて、実生活の中での現象として理解している。<br>イ) 常用漢字を適切に使用することができる。<br>ウ) 本教材について、筆者の主張を理解している。<br>エ) 評論の内容、構成、論理の展開について、的確に把握している。 | ○ | ○ | ○ | 7           |
|             | F「ポピュリズムとは何か」（森本あんり）<br>問題演習<br>【知】文章の効果的な組み立て方、接続の仕方を理解する。<br>【思】論理の展開を叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。 | ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。<br>・書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的に応じた適切な文や文章を書く。 | ○  | ○ |   | ア) 本教材のテーマについて、実生活の中での現象として理解している。<br>イ) 常用漢字を適切に使用することができる。<br>ウ) 本教材について、筆者の主張を理解している。<br>エ) 評論の内容、構成、論理の展開について、的確に把握している。 | ○ | ○ | ○ | 7           |
|             | G「男の絆、女たちの沈黙」（伊雄大）<br>問題演習<br>【知】文章の効果的な組み立て方、接続の仕方を理解する。<br>【思】論理の展開を叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。   | ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。<br>・書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的に応じた適切な文や文章を書く。 |    |   |   | ア) 本教材のテーマについて、実生活の中での現象として理解している。<br>イ) 常用漢字を適切に使用することができる。<br>ウ) 本教材について、筆者の主張を理解している。<br>エ) 評論の内容、構成、論理の展開について、的確に把握している。 | ○ | ○ | ○ | 7           |
|             | H「権力とは何か」（杉田敦）<br>問題演習<br>【知】文章の効果的な組み立て方、   | ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深め   |    |   |   | ア) 本教材のテーマについて、実生活の中での現象として理解している。<br>イ) 常用漢字を適切に使用することができる。   |   |   |   |             |



高等学校 令和8年度 (3学年用) 教科 国語 科目 理系古典探究

教科: 国語

科目: 古典探究

単位数: 2 単位

対象学年組: 第 3 学年 A 組 ~ H 組

教科担当者:

使用教科書: 「古典探究」第一学習社

教科 国語

の目標:

【知識及び技能】

生涯にわたる社会生活に必要な国語について、古典文学作品に触れることにより日本文学の伝統を理解し、知識として身につける。

【思考力、判断力、表現力等】

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、自己の思考を深化させ、理解する能力、伝達する能力の向上を図り、生涯を支える国語力を身につける。

【学びに向かう力、人間性等】

言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目

文系古典探究

の目標:

| 【知識及び技能】  | 【思考力、判断力、表現力等】  | 【学びに向かう力、人間性等】   |
|---|---|--|
| 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、伝統的日本文化に触れ、古典文学作品に触れることにより、我が国の言語文化に対する理解を深めている。 | 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 | 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。 |

|         | 単元の具体的な指導目標  | 指導項目・内容  | 領域  |   |   | 評価規準   | 知 | 思 | 態 | 配当<br>時数 |
|---------|--|--|-----|---|---|--|---|---|---|----------|
|         |  |  | 話・聞 | 書 | 読 |  |   |   |   |          |
| 1<br>学期 | <ul style="list-style-type: none"> <li>「須磨の秋」「紫の上の死」 (源氏物語)</li> </ul> <p>【知】 文語の決まりや古典特有の表現について理解すること。</p> <p>【思】 文章の内容・構成・展開について理解すること。</p>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>原文筆写や音読などによって平安時代の文学に親しむ。</li> <li>文章の構成・展開、表現の特色について考える。</li> <li>平安時代の文化、習慣、言葉について理解を深化する。</li> </ul>           | ○   | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>ア) 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。</li> <li>イ) 古典の世界に親しみ、古文を読むために必要な文語文法、古文特有の表現などについて理解している。</li> <li>ウ) 文章の構成や展開などについての的確に理解している。</li> </ul>    | ○ | ○ | ○ | 12       |
|         | 定期考査   |  |     |   |   |  | ○ | ○ |   | 1        |
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>「夢よりもはかなき世の中」「手枕の袖」 (和泉式部日記)</li> </ul> <p>【知】 文語の決まりや古典特有の語について理解すること。</p> <p>【思】 文章の内容・構成・展開について理解すること。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>原文筆写や音読などによって平安時代の女性による日記に親しむ。</li> <li>文語文法、特に助動詞の活用のしかたや意味について学ぶ。</li> <li>平安時代の文化、習慣、言葉について理解を深化する。</li> </ul> | ○   | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>ア) 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。</li> <li>イ) 古典の世界に親しみ、古文を読むために必要な文語文法、古文特有の表現などについて理解している。</li> <li>ウ) 文章の構成や展開などについての的確に理解している。</li> </ul>    | ○ | ○ | ○ | 12       |
|         | 定期考査   |  |     |   |   |  | ○ | ○ |   | 1        |
| 2<br>学期 | <ul style="list-style-type: none"> <li>「花山天皇の出家」「三舟の才」 (大鏡)</li> </ul> <p>【知】 文語の決まりや古典特有の語について理解すること。</p> <p>【思】 文章の内容・構成・展開について理解すること。</p>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>原文筆写や音読などによって歴史物語に親しみ、平安時代の貴族文化に触れる。</li> <li>貴族社会における身分制度によって生じる敬語について、理解を深化する。</li> </ul>                       | ○   | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>ア) 歴史上の人物について、その人物像を的確に把握している。</li> <li>イ) 教材の『大鏡』が成立した背景や、他の作品との関係をふまえて、内容を理解している。</li> <li>ウ) 古文における助詞や助動詞について意味を的確に理解している。</li> </ul>              | ○ | ○ | ○ | 12       |
|         | 定期考査   |  |     |   |   |  | ○ | ○ |   | 1        |
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>「初冠」「渚の院」 (伊勢物語)</li> </ul> <p>【知】 語の意味や文章表現の特徴について理解すること。</p> <p>【思】 文章の内容・構成や、登場人物の心情について理解すること。</p>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>原文筆写や音読などによって平安時代の物語に親しむ。</li> <li>文語文法、特に助動詞の活用のしかたや意味について学ぶ。</li> <li>平安時代の文化、習慣、言葉について理解を深化する。</li> </ul>      | ○   | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>ア) 物語の登場人物の相関関係を理解し、主人公にまつわる設定を的確に把握している。</li> <li>イ) 教材の『源氏物語』が成立した背景や、他の作品との関係をふまえて、内容を理解している。</li> <li>ウ) 古文における助詞や助動詞について意味を的確に理解している。</li> </ul> | ○ | ○ | ○ | 12       |
|         | 定期考査   |  |     |   |   |  | ○ | ○ |   | 1        |

